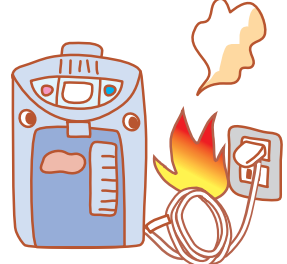
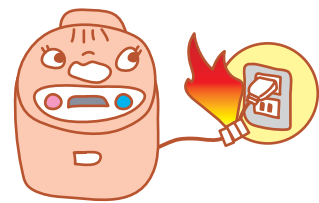


コードや配線器具の事故が多発しています！

こんな使い方していませんか？



コードを束ねる



自分で修理をする



接続可能な最大消費電力を超えて使用する



コードを曲げたり引っぱり張ったりする

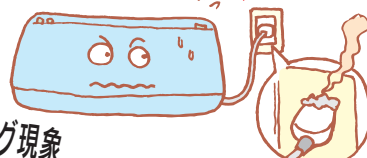


コードを踏みつける

コードを引っ張って抜く



トラッキング現象



ほこりや水分が付いたままにする

携帯電話機やスマホにかかわる事故が発生しています！

発熱や発煙、発火のおそれがあります！



異常発熱



コネクタ正常品



焼損したコネクタ

- ・汗や飲料水、ペットの尿など液体をコネクタにかけない
- ・コネクタに金属やごみなどを付着させない
- ・一度曲がってしまったコネクタは使用しない
- ・コネクタは接続の方向を確認してまっすぐに差し込み、斜めに無理に差し込まない
- ・接続するとき、無理に力をいれない

リコール製品を使っていませんか？

お持ちの製品がリコール製品に該当していないか NITE のホームページで確認してください。

<https://www.nite.go.jp/jiko/jiko-db/recall/search/>



リコール製品はすぐに事業者へ連絡してね



- ・リコール製品の場合は、直ちに使用を中止して、事業者にご連絡ください
- ・事業者が倒産などで連絡がとれない場合は、適切に処分をしてください

未回収のリコール製品で事故が発生しています

ついうっかりが

思わぬ事故にならないように 製品は正しく使いましょう

冬



コードや配線器具は正しく使ってください。
(裏の注意事項参照)



経済産業省産業保安グループ
製品安全課製品事故対策室

TEL 03-3501-1707 https://www.meti.go.jp/product_safety/



NITE・製品安全センター 広報担当
TEL 06-6612-2066 <https://www.nite.go.jp/jiko/>



死亡事故が多く発生しています!!

こぼれた灯油に引火して火災

事例
石油ストーブから出火し、住宅1棟を全焼、隣接する建物8棟を焼損し、1人が死亡、1人が重傷を負った。(2016年2月 大分県)



原因
カートリッジタンクに給油後、給油口キャップを斜め締めにしていたため石油ストーブへ戻す際に灯油がこぼれ、拭き取りが不十分な状態で点火したためこぼれた灯油に引火し、燃え広がったものです。

ガソリンを誤給油して火災

事例
石油ファンヒーターを使用中、製品及び周辺を焼損する火災が発生し、住宅を全焼、1名が死亡した。(2016年1月 神奈川県)

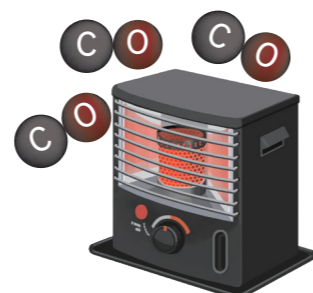


原因
誤ってガソリンを給油して点火したため、異常燃焼を起こし、火災に至ったものです。

就寝中に一酸化炭素中毒

事例
石油ストーブをつけたまま就寝中、一酸化炭素中毒で死亡した。(2013年12月 島根県)

原因
密閉した室内で使用していたため、給気不足から不完全燃焼状態となって一酸化炭素が発生したものです。



- ・就寝時はストーブを使用しないでください。
- ・給油するときは、必ず火を消してください。カートリッジタンクのふたが確実に締まっているか確認してください。
- ・使用する際は、こまめに窓を開けるなど換気をしてください。
- ・間違ってガソリンを入れると、異常燃焼を起こします。保管場所に注意してください。

電気ストーブに布団が触れて火災

事例
電気ストーブ付近から出火し、集合住宅の一室を全焼した。(2014年2月 岐阜県)



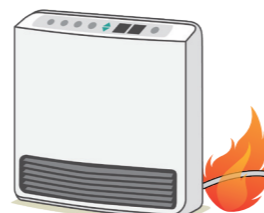
原因
電気ストーブをベッドの近くで使用していたため、布団がヒーターに触れて火がついたものです。



- ・寝るときは、スイッチを切ってください。寝返りをうったときなどに、布団や毛布などがストーブに触れると、ヒーターの熱で火がつくことがあります。
- ・ストーブの近くに燃えやすいものを置かないでください。カーテンの近くで使用するのも危険です。

ガスファンヒーターが爆発

事例
ガスファンヒーターが爆発して周辺が焼け、けがを負った。(2014年11月 大阪府)



原因
専用のガスホース(ガスコード)ではなく、取扱説明書で禁止されているゴム管で接続していたため、接続部からガスが漏れ、ファンヒーターの火が引火したものです。



- ・ガス栓とガス機器の接続は、ガス栓にごみなどが挟まっていないことを確認してから、適正な接続具を使用してください。
- ・ガスホースが確実に接続されていることを確認してください。

スプレー缶が破裂して火災

事例
使用中の石油ファンヒーター付近から出火し、周辺を焼損した。(2017年12月 千葉県)



原因
温風出口付近にスプレー缶を置いていたため、スプレー缶が過熱され、破裂し事故に至ったものです。



- ・暖房器具やガスこんろの近くなど、高温になる場所にスプレー缶を置かないでください。
- ・缶が熱せられると、内部のガスが膨張して内圧が上がり、缶が破裂し、ふき出た可燃性のガスに引火します。

電気ミニマットで火災

事例
使用中の電気マットが発火し、周辺を焼損した。(2015年2月 福岡県)

原因
電気マットをベッドのマットレスの上に置いて就寝時に使用していたことから、ベッドの沈み込みなどでヒーター線がずれて重なり合い、異常発熱して焼損したものです。



- ・電気ミニマットは就寝時の暖房器具として使用しないでください。また、ほかの暖房器具と併用しないでください。

電気こたつで発煙

事例
使用中のこたつから発煙し、こたつ布団の一部が焦げた。(2015年12月 千葉県)



原因
やぐらの中にこたつ布団を押し込んだため、布団がヒーターの保護カバーと接触し、焦げて発煙したものです。



- ・電気こたつの中にこたつ布団や座いす、座布団などを押し込まないでください。
- ・洗濯物を乾かして火災になった事例もあります。
- ・電源コードをこたつの脚で踏んだり、折り曲げたりすると断線の原因になるので注意してください。

除雪機による事故

事例
使用中の除雪機の下敷きになって死亡した。(2016年1月 長野県)



原因
安全装置であるデッドマンクラッチをテープで固定して無効化していました。そのため、後進時に転倒した際、除雪機が止まらず下敷きになってしまったものです。



- ・安全装置が正しく作動しない状態では使用しないでください。また、デッドマンクラッチを意図的に無効化したり、故障を放置したまま使用しないでください。
- ・後進時は、転倒したり、挟まれたりしないよう、足元や後方の障害物に十分注意してください。
- ・雪詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから雪かき棒を使って行ってください。